



●Answer

ざん おういん きゅうようじ ぜんじゅうしょく
沖縄市・コザ山 仁王院 球陽寺 前住職
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)

シーニーやお盆のとき、いつも祖母が「ヒラウコウ 15本をピッタリくっつけて焼香しなさい」としつこく言います。束ねても離しても意味は同じだと思いますが、何か理由があるのでしょうか?

(浦添市・Sさん・30代・男性)

A 沖縄のしきたりのうち、長男と次男以降(長男以外の男女を含む)が焼香するヒラウコウの本数は、長男は15本、次男以降は3本と区別されることがあります。これは、本家の長男は満月の十五夜の15本、分家の次男以降は天・地・仁(水)の森羅万象の3本という考え方によ来するからだと思います。

また、長男が使用する15本には、ウグワンス(お仏壇)では15本をくっつけて(束ねて)使用し、ヒヌカン(火之神)では、15本を12本・3本に分けて使用するという考え方もあります。

Sさんのおばあちゃんがおっしゃる「15本をピッタリくっついで焼香しなさい」というアドバイスは、多分、ヒラウコウの基本的な使用方法である、15本と12本・3本の区別の仕方をお話しされているのだと思います。

よくよく考えてみますと、15本も12本・3本も、その使用する総数は15本であることがわかります。双方は、同じ本数を束ねるか離すかだけの違いです。なぜ、

Q シーニーやお盆のとき、いつも祖母が「ヒラウコウ 15本をピッタリくっつけて焼香しなさい」としつこく言います。束ねても離しても意味は同じだと思いますが、何か理由があるのでしょうか?

グソーランドトウ ウグワングトウ

前述したように、一般的に15本はウグワンスで使用することが多く、12本・3本はヒヌカンで使用することが多いとされています。その理由は、15本はグソーランドトウ(後生事・仏事)を表現するからだといい、12本・3本はウグワングトウ(御願事・神事)を表現するからだといいます。

後者の12本・3本では、12本はヒヌカンへの敬いの焼香と考えられ、3本は私たちのウグワン(御願)の焼香と考えられています。いきなり、個人的なお願いごとから始めるのではなく、先にきちんとヒヌカンへ敬つたのちにというあたり、心温まるマナーの表れなのでしょうね。一方、15本は少し複雑になり、蓮華(れんげ)思想の表れといわれています。

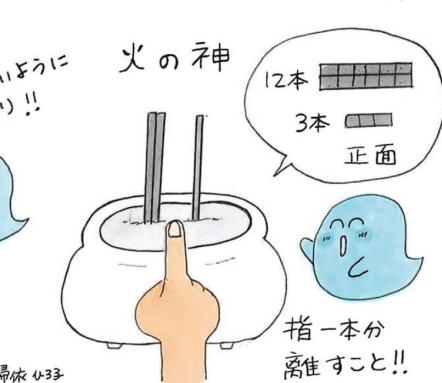
記載されているお札の下の金色の台座には、ギザギザに見える蓮の花びらが彫刻されています。

Sさん、今後もヒラウコウの15本は、ぜひ、おばあちゃんのアドバイスのとおり、ピッタリくっつけて(束ねて)焼香していただければと思います。まさに、沖縄のしきたりの究極、それを孫に伝えるおばあちゃんのジンブンは、蓮の花のごとく美しく偉大ですよね。

蓮華思想とは

沖縄の仏事の儀式・法要では、身の回りに多くの蓮華思想が存在しています。たとえば、御仏前・御香典などの金封の表紙には、蓮の絵が印刷されています。また、トートーメーの中、ウヤファーフジのお名前が

この蓮華思想に意味合いを持たせ、いつしか点火されたヒラウコウが前後に反り返る様子を見て、蓮の花が開花した、つまり、故人様が成仏をされたと確信するしきたりが始まつたといいます。



ヒラウコウの開花論

沖縄の仏事の儀式・法要では、身の回りに多くの蓮華思想が存在しています。たとえば、御仏前・御香典などの金封の表紙には、蓮の絵が印刷されています。また、トートーメーの中、ウヤファーフジのお名前が

また、蓮の花は散つても、水底に沈むことなく、花弁が船形であることから水面で浮いていることがあります。この様子を、故人様が地獄に沈まず(墮ちず)、グソーグ極楽に浮く(成仏)するとの考え方に関連させることもあります。

Sさん、今後もヒラウコウの15本は、ぜひ、おばあちゃんのアドバイスのとおり、ピッタリくっつけて(束ねて)焼香していただければと思います。まさに、沖縄のしきたりの究極、それを孫に伝えるおばあちゃんのジンブンは、蓮の花のごとく美しく偉大ですよね。

【質問をお寄せください】年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q & A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。